

## 島根県の経済雇用情勢

資料	2
----	---

【島根県の経済動向 [平成20年11月分]】 (平成21年1月28日 政策企画局統計調査課)

ー 本県経済は、悪化している。 ー 生産活動は大幅に低下、雇用情勢は悪化し、個人消費はやや弱い動き、投資動向も基調として弱い動きが続いている。		
生産活動	↘	～大幅に低下～ 鉱工業生産指数(季節調整済指数)は83.4、対前年同月比も23%の減と急速に下降した。大口電力需要実績も40か月振りに前年を下回り、生産活動は大幅に低下している。
雇用情勢	↘	～悪化～ 有効求人倍率は0.80倍に低下し、新規求人数は2か月連続で前年を下回った。また、現金給与総額、きまって支給する給与もマイナスとなり、さらに所定外労働時間(製造業)は40%の減と前年を大幅に下回っており、雇用情勢は悪化している。
個人消費	↘	～やや弱い動き～ 大型小売店販売額は2か月連続で、ホームセンター販売額は7か月連続で、家電量販店販売額は9か月連続で前年を上回ったが、乗用車新車登録台数は4か月連続で前年を下回っており、やや弱い動きとなっている。
投資動向	↘	～基調としては弱い動き～ 建築着工床面積は2か月連続で、公共工事請負金額は2か月振りに前年を上回ったが、新設住宅着工戸数は5か月振りに前年を下回っており、基調としては弱い動きが続いている。
企業倒産	⇒	～倒産件数5件～ 企業倒産件数は5件。うち建設業は2件、製造業は1件。
金融情勢	⇒	～貸出金残高は昨年と同水準～ 銀行預金残高は5か月連続で前年を上回った。銀行貸出金残高は昨年と同水準であった。
物価	⇒	～対前年1.3%上昇～ 消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は102.2となり、対前年同月比1.3%増と13か月連続で上昇となった。
島根県景気動向指数 (平成21年1月28日 公表)		景気動向指数の先行指数は2か月連続で50%ラインを下回った。一致指数は3か月連続で50%ラインを下回った。

【島根県の経済情勢 [平成21年1月]】 (平成21年1月 財務省松江財務事務所)

総論	県内経済は、悪化しつつある。 生産活動がこのところ急激に低下している。さらに、個人消費は一部に厳しさがみられ、雇用情勢で弱い動きが鮮明になっているほか、企業収益も大幅な減益見込みとなっている。	
	前回(20年10月)	今回(21年1月)
総括判断	足踏み状態	悪化しつつある
個人消費	おおむね横ばいとなっているものの、一部に弱い動きがみられる	一部に厳しさがみられる
生産活動	おおむね横ばいとなっているものの、やや弱さがみられる	このところ急激に低下している
雇用情勢	引き続き弱含んでいる	弱い動きが鮮明になっている
公共事業	わずかながら前年度を上回っている	前年度を下回っている
設備投資	20年度は減少見通し	20年度は減少見込み
企業収益	20年度は減益見通し	20年度は大幅な減益見込み

## 【島根県の雇用情勢】

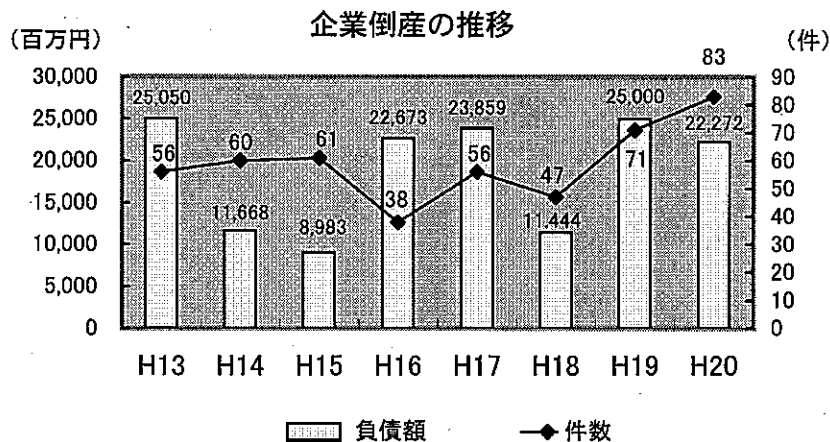
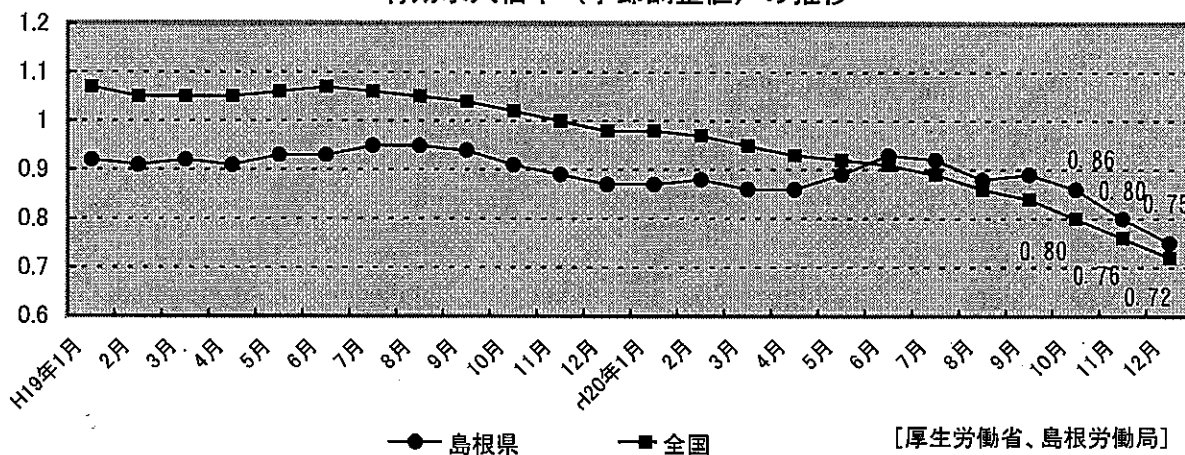
- 非正規労働者の雇い止め等：平成20年10月から本年3月まで1,588人、34事業所。
- 有効求人倍率：平成20年12月は0.75倍、3か月連続で悪化。
- 企業倒産：平成20年は83件、負債総額220億円余、高水準で推移。

### 非正規労働者の雇い止め等の状況

34事業所 1,588人			
就業形態の内訳			
派遣	25事業所	740人	46.6%
契約（期間工等）	3事業所	250人	15.7%
請負	5事業所	461人	29.0%
その他	5事業所	137人	8.6%

【島根労働局】

### 有効求人倍率（季節調整値）の推移



業種	H18		H19		H20	
	件数	負債額	件数	負債額	件数	負債額
建設業	18	4,691	33	6,819	36	6,743
製造業	2	521	16	11,651	13	2,682
卸・小売業	14	3,760	9	2,611	22	2,766
その他	13	2,472	13	3,919	12	10,081
計	47	11,444	71	25,000	83	22,272

【東京商工リサーチ】